

2022 年度特定研究奨励金 報告書

報告者所属・氏名

所属	生活科学部 生活文化学科	氏名	塚原 拓馬
----	--------------	----	-------

奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

今回申請した研究課題は、生涯発達における成人期の心理的健康について個人要因（自己調整方略）と組織・集団的要因との関連から検討することであった。それは、主に中高齢者に対する実態調査により、個人要因と集団・組織的要因との関連から、人の生涯の適応的な心理発達（Well-being）について検討することである。

分析テーマとしては、（１）主に中高齢期における適応的な心理発達の要因分析、（２）中高齢期の発達移行の課題と関連性の探究、について「認知的調整方略」の作用効果の観点から解明することであった。研究は現在も継続中であるが、これまでの研究結果からは、「認知的調整方略」の作用が、（１）適応的な人間発達に寄与する可能性を実証的に明らかにしたこと、また（２）中年期から高齢期における発達の移行期の課題を補償する効果があることを示唆することが明らかとなった。なお、具体的な研究実績については、以下の通りある。

（学会発表）

・日本発達心理学会第 34 回シンポジウム 「成人期・高齢期における発達の最適化と Well-being —発達、社会、臨床的知見による理解と支援」 於：立命館大学

以上